

Chairperson's
messageNader Shokoufi
Iran

巻頭言

エンジニアという職業は大変やりがいのある仕事である。そしてそれは私のもっとも愛する職業である。私たちは常に、最善を尽くし、前進し、そして誰も行ったことの無い領域に果敢に突き進んでいくことにより、実力を上回るような成果を出さなくてはならない。

実際に、我々にこういった挑戦を強要するものが多くある。中でも、経済危機と自然災害がそれである。私がこれを書いている時にも、ハイチでは、地震により1万人の命が失われ、また10万人のホームレスを出した。これら全ての元凶であるマグニチュード7.0という地震が、もしカリフォルニアや日本で起こっていたならば、ここまでの被害は出なかったであろう。ここで強調したいのは、優れた技術手法の重要性と、地域社会の中での生活水準の改善と救命という技術者の担うべき役割である。自然災害は起こる。そして、“地球温暖化”という人類の活動結果により、自然災害発生の頻度はさらに増すことだろう。

COP コペンハーゲン大会での成果は、もっと有望なものになるはずだった。我々は、持続可能な発展に向かう上でより多くの政治的支援を期待していたのだ。我々のニューズレターのコペンハーゲン大会に関する記事を読んでも、デンマークからの新しい YPF (若手エンジニアフォーラム) ステアリングコミッティメンバーである Thomas Jensen はこう書いている。「この不十分な結果でコンサルタントもしくは企業団体、地方自治体の活動を止めるべきではない」。そして同様に、経済危機という理由で我々の技術的発展を止めるべきではない。前 YPF ステアリングコミッティ議長である Alex Eyquem は2009年7月の YPF ニュースレターで次のように書いている。

「この危機は、我々に対するモーニングコールである。我々の価値観を見直す唯一のチャンスであり、将来の世代のために公正さと持続可能な社会を進展させるチャンスでもあるのだ」。今のこの状況を、我々の社会をより良い生活水準にするために、我々の専門性や責務をさらに強力なものにするチャンスに変えることができるのである。今年、YPF ステアリングコミッティの新チームは、我々の専門性に対するいくつかの問題点や我々の業界に対する若手専門職の貢献などについて一生懸命取り組んでいる。我々のコミッティは現在13名のメンバーからなり、それぞれ出身国は世界にバランスよく広がっており、先進国・途上国両方の代表がそろっているということができる。このように多くの活動的なメンバーが揃っているので、このコミッティを4つの部会に分けた。

A 部会：ニューデリーFIDIC大会における YP 行事の計画

B 部会：ニューズレター、YPF、ウェブサイトの運営

C 部会：YPF と YPMTF (若手専門職経営トレーニングプログラム) の間の橋渡し

D 部会：世界の若手エンジニアの交流強化

Richard Stump (2006-2008年の YPF ステアリングコミッティ議長)と Alex Eyquem (2008-2009年の YPF ステアリングコミッティ議長)両氏は、FIDIC 内の若手エンジニアの活動を広げるために完璧な仕事を行なった。そうして YP プログラムは年々強化されたのだ。我々新しい YPF ステアリングコミッティチームは、さらに若手エンジニアの活動を強化するよう最善を尽くしている。我々は、自分達が持っている能力を駆使する必要がある。そして、Richard が2008年12月に発行されたニューズレターに残したメッセージのように、我々全員が、“参加して、変えていく”必要があるのだ。

Nader Shokoufi

YPF ステアリングコミッティ議長

Warren Bradley
UK

2009年FIDICロンドン大会のYPレビュー 持続可能な解決に向けた国際的な挑戦

持続可能な解決に向けた国際的な挑戦をテーマに、2009年FIDICロンドン大会が2009年9月14-16日で開催された。本大会は、地球温暖化（Cop15）に関するコペンハーゲンサミットの2カ月前であり、世界中からの技術者が、持続可能性に関する彼らの経験と意見を共有する素晴らしい機会を提供した。

オープニングセレモニーにはまさにふさわしいマーガレット王女のスピーチを含めエンジニアリングが世界に普遍的に重要であることと持続性における役割に焦点をあてたものであった。王女のスピーチの後には芝居が披露され、今日においてエンジニアが遭遇する問題は実はエリザベス時代においてもそうであったことが風刺されたものであった！しかしながら、この芝居は真剣な会議の内容とあいまって会議全体のバランスをうまくとるものであったし、一方で英国における演劇の伝承を会議参加者に印象付けるものであった。

持続可能性とは、多くの人に対して多くの重要性を意味している。事実、FIDICは1つの挑戦として、持続可能性に関する幅広い議論をカバーするとともに、見通しや重大性および業界における達成要件の議論と同意を得るために、集中的に議論がなされた。

様々なスピーカーと関連するセミナーは、問題を提起して議論するために理想的な枠組みを提供した。3日間を超える会議で、重要な論点を取り上げられた。出席できずかつ心をリフレッシュできない技術者の利益のため、次の段落ではいくつかの主要論点や観点および同意された成果を提供している。

私達には、現代社会の期待と行動を調整する必要があるという一致した意見があった。Cop15では、持続可能性を国際的な政治課題として上げ、我々コンサルタント技術者は、これまでとの差異を生み出し、必然性や硬直性の打破を支援するために、これをフルに活用する必要がある。我々は、技術者達に世界中の声を与え、影響を及ぼすために、FIDICや類似組織の特徴を掲げる必要がある。影響をより効果的に与えるため、政治家の言葉と動機を学ぶことで政治課題における持続可能性を保つ必要がある。それは政治的サポートや社会的サポートに過ぎず、真の投資は、明日の解決策の開発や差異創出の流れを作ることができる。

主要な反響として、技術者から持続可能な解決策の開発を支援するツールの提供が求められていた。「一般的なカーボン測定基準」は重要なスタートであり、排出枠取り引きや水のコンセプトに関する研究は、その主要な方法として提案された。新しい基準は実務の中に組み込まれており、投資は研究開発の中で作られていた。経済状況に関わらず、投資は私たち人間と産業によって維持される必要がある。ある研究では、工学において10%以上多く投資すると、30%以上の雇用が創出され、50%以上の社会基盤が創出されることを示していた。我々は、継承のときの思想家'や焦点と同様にエンジニアリング産業自体の持続可能性の継続計画を立てながら思想家'に投資する必要がある。教育係とクライアントに対して投資をしなければならない。そして、この過程に若い専門家を含まなければならない。

FIDICロンドン大会では、個人や団体が表舞台に立って、産業、政府、学生、子供、および社会全般を鼓舞し、先導することの必要性 - エンジニアリングの表看板が必要であること - が示された。先進国及び発展途上国は異なる課題を抱えるが、その根本には、効果的、効率的な基盤に対して共通する高いニーズがあるこ

とが知られている。財政は重要な課題であるが、国民に教育を提供するように、必要

な投資を成し遂げるために、時々、市場が歪められることが知られている。我々は、互いの経験を学び、互いの責任を共有することが必要である。

会議の2日目は、要人たちの議論の場（セミナー）が提供された。そして、このセミナーでは、分野・地域・地方の特性が焦点となった。そこは、最高の実演場所であり、いくつかの例が示された。例えば、大都市が今日の科学と工学的な技術が示されたが、これら都市は集団の一部であり、統合的な解決策や財政的経費について、技術により得られる利益との比較が必要である。限界を押し上げることで、より良い方法やアイデアを学べるようになり、効果的な基準の進展は、学習と知識発展の支援となることは確かである。持続させるために明確な目標が着手時に要求されること、そして、それらが日々の実践の中で、全てのレベルに広まっていく必要があることが、これまでに学んだ教訓である。

工学分野には様々なバリエーションがあるが、研究開発への十分な投資と政策立案の過程が重要であり、地方と国家では、地方の必要条件と状況が解決の一部であるべきであり、国家の目標を現地の状況に合わせるために地方の自治体を活用すべきである。FIDIC加盟協会は、一般的に用いられる持続性の標準化を目指すべきである。国家と地方に差はあるが、我々が信頼される団体となるためには、コンサルタントは倫理的に行動しなければならないと強調された。

調整は不可欠であり、我々全員で、行動し、知識を共有して、協調して声明を発表しなければならない。FIDICは、加盟協会に世界的な支持施政方針を打ち出すことで我々の意見が発展することを支援し、強い支持を結果に繋げることを表明した。個別企業と技術者を通じて、FIDICと加盟協会の全員が支援に参加し、政治的過程に率先して交渉しなければならない。我々は、すべてのレベルでメッセージを強め、有効にする必要がある。政治家が何に興味を持っているかを理解し、それに応じて、我々のメッセージを改善する。一貫した声明を確実にするために、各国の代表団は、同盟を結ぶ、または統合すべきである。イギリスにおける建設アドバイザーのモデルは、他国において役に立つアプローチである。

FIDIC大会期間の3日間は、CE業界の主要な問題の討論し、ネットワークを促進する素晴らしい機会であった。出席した若い専門家が、対話の主要な部分を形成した。そして、火曜日に行われた、成功を収めている将来のリーダーワークショップは、若い専門家に良い機会を提供した。そこで、彼らは産業が何に貢献することができるか、また、それを実現できるように、CE業界からどのようなサポートが必要なのかを明示した。将来のリーダーワークショップに続いて、FIDIC YPFSC (Young Professionals Forum Steering Committee 若手専門職フォーラム運営委員会)により、2012年のロンドンオリンピック大会の建設現場への見学があった。観光ガイドは、ルート上でオリンピック誘致の成功と発展、地元のコミュニティ・地方発展・遺産計画との関連について説明した。2012年のロンドンオリンピックは、これまでに開催されたオリンピック中で、最も持続可能なオリンピックイベントを実現することであり、そして、設計と建設は、技術者と建設業が実現可能であることを世界に示す真の機会となる。

FIDIC ロンドン大会の総括として、FIDIC、加盟協会、世界的なCE業界の一連の活動を通じて持続可能性を追求し、CE産業の地位を向上することを提言した。CE業界には、技術者の技能と能力を社会に明示する機会がある。FIDIC大会で

NEWSLETTER

YOUNG PROFESSIONALS FORUM
INTERNATIONAL FEDERATION OF CONSULTING ENGINEERS

議論した視点は、明白で、理想主義的なように見えた。しかし、きっと、世界が変わり、我々は技術者として、特に若い技術者は、最前線に立ち、活躍する必要がある。我々がやらなければ、ほとんどが手遅れになるだろう。もう行動すべき時間である、難題に立ち向かおう。



左から順に：

2009 YPFSC Chair Alex Eyquem、Previous 2008 Chair Richard Stump、YPFSC 2009 member Liu Luobing (the London Conference evening Gala)



Mike Pniewski
USA

YPMTP 2009

毎年、国際コンサルティング・エンジニア連盟（FIDIC）では、若手専門家が、グローバルな環境の中で経営技術の更なる発展することができる場として、若手専門職経営トレーニングプログラム（Young Professionals Management Training Programme TPMP）を提供している。2010年のプログラムは、2010年2月中旬から始まっており、広く参加の申し込みを受けている。

プログラムの目的は、参加者のリーダーシップと経営能力向上である。プログラムは、2段階で構成されている。第1段階は、オンライン演習とテレビ電話会議による7ヶ月間のトレーニングプログラムである。第2段階は、FIDICの年次大会の一つであるフューチャー・リーダーズ・ワークショップの中で直接会議を行う。2010年のFIDIC大会は、インドのニューデリーで開催する予定である。

YPMTPの参加者には、今日及び今後のコンサルティング・エンジニアが直面している経営テーマが提供され、参加者によって分析される。各テーマは、参考データを通して参加者によって研究され、議論されている。各テーマの結論は、現実的なケース・スタディが提示され、参加者はテーマと商習慣の理論に基づいて、国際的に同位者とともに解決策を見出している。コンサルティング・エンジニア産業の中で個々に卓越した指導者は、論理的な討議からケース・スタディを実施している間、経験を活かし指導を行っている。各参加者は、自分自身で解決策を見出すことで自身を持ち、同位者や指導者と議論を分かち合っている。



2009年のプログラムには、世界中から約25人の若いプロの参加者が参画した。第1段階のオンライン演習では、時差を考慮して2チームに分けられた。プログラムのテーマは、以下のとおり。

- 組織と人材資源開発
- オーナーシップ構造
- コンサルティング・サービス市場
- 多文化マネジメント

各テーマは、オンライン演習とテレビ電話会議の両方を用いて、3つの仮想セッションから構成された。初めのセッションは、議題となるテーマについてテーマの指導者からの講演と分析されたケース・スタディのプレゼンテーションから構成された。参加者達は、更なる研究のために補足資料の聞き込みをした。テーマの理論的な局面については、仮想セッションの間にオンライン演習によってテーマの指導者から支援されながら、議論や討議がなされた。中盤のセッションでは、論理的な討議のまとめとケース・スタディの議論がなされた。各ケースの研究は、参加者達がオンライン演習によって更なる討議を行い、ケース・スタディの結論をまとめた。各チームにおけるケース・スタディの結論は、最終セッションにおいてコース・コーディネーターとテーマの指導者から発表された。

第2段階のフューチャー・リーダーズ・ワークショップは、FIDEC大会期間中に4日間の集中して実施される。テーマの更なる討議について指導をうけ、ケース・スタディの調査結果をまとめる。参加者には、FIDEC大会ヤング・リーダーズ・ワークショップで発表するための最終的なプレゼンテーションの準備作業が課される。最終プレゼンテーションは、参加者が産業界に直面する試みへの見通しを提示し、それらの問題を可能とする解決法を提供する機会となる。

このプログラムから得られた知見は、以下のとおりである。

-理論を通じた適切な問題と同位者や上級指導者とともに議論することを通して実践を学ぶこと。

-プログラムと将来の両方の経験を分かち合い、若手専門家の国際的ネットワークを発展させること。

-国際的なコンサルティング産業に影響を与えるさまざまな問題の知識を得るために、会議であらゆるセミナーやプログラムに開催すること。

2010年 YPMTF に関する詳しい情報は

<http://ypf.fidic.ch/training/Pages/default.aspx>

AJCE 会員企業の若手技術者も毎年このプログラムに参加しています。



Michele Kruger
South Africa

Crossroads Boys Home プレトリア、南アフリカ

若手エンジニアフォーラムのGautengグループは、SalvokopにあるCrossroads Boys Homeにおいて、不遇な環境にある子供たちに家庭教師として個別に指導する取り組みをはじめた。Crossroadsは、かつてホームレスだった少年や若者、35人の家である。

若手エンジニアフォーラムのグループがこのHomeに関心を抱くようになったのは少年向けの職場説明会に招かれたときがきっかけであった。説明会への参加をきっかけに、若手エンジニアフォーラムのGautengグループは、若手技術者がこれら若者の勉強を手助けし、彼らを指導するプログラムを立ち上げることを決めた。

Ramona Reddy(Stemele Bosch & Associates および 若手エンジニアフォーラムハウテン南委員会に所属)は、このプロジェクトの推進者の役割を引き受けた。彼女のマネジメントのもと、定期的な指導プログラムが2009年9月に立ち上げられた。2週間に一度、若手技術者が土曜日の朝、彼らの学校の宿題を手伝っていた。何人かは、友達やパートナーも連れてきた！若手技術者は、数学、物理、化学、経理、コンピュータ、観光学などの科目のほかに、『読み書き』のような基礎的なスキルに関する支援をしている。



DJJ Conradie & Partners の Ed Bird は9年生の数学を教えている。



SSIのDenzel Madurayは、Davidに対して11年生の数学を教えている。

Ramonaは以下のように言っている。

「幼少期の初めの6年間、子供は周辺環境の影響を非常に受けやすく、もっとも重要な時期であると考えられています。この幼少期が、虐待やネグレクト・不幸により崩壊すると、その破壊的な環境によって受けた傷を癒すために実に多くの年月がかかります。ほんの2、3時間の誰かの時間があれば、幼少期における負の影響を徐々に癒す助けになると、私は信じています。

私たちは誰でも、手助けされていない人たちに手助けを、教育を受けていない人たちに教育を、やる気をなくした人たちに動機づけを、そしてもっとも重要なこと、

それは、愛されていない人たちに愛情を注ぐことに全力を尽くすことができます。若手技術者として、もし私たちが正しい道を開くことができれば、私たちはすぐに同じ道にたくさんのお後継者を得ることができるでしょう。

Crossroadsの少年の中には、さらに勉強し教育を受けに行くことによって、夢を追いかけている人たちもいます。私たちは、不要な教科書や、小説、その他の読み物を集めた図書館を設立することによって、こどもたちを支援することができます。

少年たちは、前向きで、宿題の支援や進路相談、指導の機会を受けることに胸を躍らせています。少年達と年齢の近い若手技術者として、私たちは彼らに提供できるものをたくさん持っています。」

若手エンジニアフォーラムは、Ramonaのこのプロジェクトに対する貢献と、成功に導くために注いだ膨大なプライベートな時間に対して感謝しています。また私たちは、その他のボランティア (Tshireletso Ramutla of BKS, Clement Maphanga of ITS Engineering, Kieren Brown of MPA Consulting, Edward Bird of DJJ Conradie & Partners, Mhairi Riddet of ARUP, Denzel Maduray of SSI Engineers, Sande Taka of Bigen Africa, Livingstone Mashele of Stemele Bosch and Kabelo Serutle of TUKS) に対しても、彼らのプライベートな時間を少年たちと過ごしたこと、またそれにより、彼らの将来を明るくすることを手助けしたことに感謝しています。

さらに詳しい情報は、Ramona Reddy (reddyr@sbajhb.co.za)に問い合わせてください。



ITSのClement Maphangaとそのパートナーは、数学を教えている。



ArupのMhairi Riddetは、数学を教えている。



Jan Kupec
New Zealand

ニュージーランドの若手技術者について（個人的見解）

数週間前、私はメールを受け取り、ニュージーランドのヤングプロフェッショナル(YP)活動についてエッセイを引き受けたのを思い出した。一年で一番忙しい時期に来たので、はじめは重荷に感じられた。だが、この活動に対する私の信念と献身の方がまさった。

私はもともとは、FIDIC ロンドン大会の ASPAC YP ミーティングで、この活動に参加することを決めた。ASPAC YP は、YP の初めての地域的なグループで、私も早い時期から熱心に参加したいと思っていた。YP というテーマは私のキャリアのさまざまな面に関連しており、このテーマに深い関心があった。

ドイツで勉強した後、私はスコットランドで大学の講師となった。その後、私はニュージーランドで国際コンサルタントの道を歩むこととなった。現在、私はプロジェクトリーダーになっているが、仕事という文脈では、実のところピープルマネジャー (People Manager) というのが実感である。

私は多くの非常に優秀な若手技術者からの報告を受け、共に働いている。また、日々さまざまな企画されている YP 活動に積極的に関わり、彼らのキャリアに少なからず影響を与えているだろうこれらの活動をつぶさに見てきた。このように、YP 活動は私にとって重要な関心事である。

昨年の若手専門職経営トレーニングプログラム (Young Professionals Management Training Programme TPMTMP) のテーマは、CE 業界の認知度の向上と若手技術者を CE 業界にいかに取り組みか、といったものであり、昨年のロンドン大会で大きな注目を受けた。YPMTMP のすべての参加者は、私達の業界は社会の中で極めて重要な役割を持っているとの考えで一致した。また、私達は将来訪れるであろう課題を克服するためには、われわれの産業を才能のある技術者を惹きつける魅力的なものにしなければならないという点においても一致した。とりわけ、気候変動やこの惑星における人口増加に対処するためのインフラ供給、増加するエネルギー需要のコントロールに関する話題は潜在的なインパクトがある。地盤工学専門のエンジニアの私にとって、これら YP の活動はきわめて重要であり、私が好き好んでこの投稿を引き受けたのはこのためである。

企業の成功にとって若手技術者はきわめて重要な貢献者である。若手技術者は企業に新しい風をもたらすだけでなく、継続的な成功のためにも必要な人材である。過去 2 年に渡り、弊社では会社の構造に関して大きな改革を行った。これらの改革は、主に弊社の従業員のレベルアップと、積極的な改革を目的として、世界経済危機以前から始められた。

弊社の改革の鍵は、個々の若手技術者の経歴に合わせて、決められた目標とそれに対する行動を意識させていることである。そうすることで、若手技術者は、日常の業務以上に業務を見渡すようになり、仕事全体に対して貢献しようとするようになる。より責任感を持たせ、指導や手助けを行うことによって、弊社の若手技術者の日々の業務の行い方は確実に変わってきている。ニュージーランドの学界では、伝統的な技術教育には無い話題を取り入れたカリキュラムが変わった。私は、これらの変更は目の前の問題に挑戦しようとしてプロの世界に入ってくる若手技術者に応えたものだと考えている。個人的には、ニュージーランドの大学の卒業生のレベルの高さに鼓舞されている。



NEWSLETTER

YOUNG PROFESSIONALS FORUM
INTERNATIONAL FEDERATION OF CONSULTING ENGINEERS

昨年、私達の地域の FIDIC 本体である ACENZ（ニュージーランドコンサルティングエンジニア協会）に、内部の仕事を観察したり、他の若手技術者の活動に混じって重要な仕事の手助けをするよう依頼された。11 月から 12 月の間、ACENZ は 8 つのニュージーランドの地域で朝食ミーティングを主催したが、若手技術者は特に積極的に参加した。2010 年 7 月にニュープリマスで開かれる次の ACENZ 定例会議では、YP 活動のためのワークショップを設ける予定である。これまでの協会のメンバーと FIDIC と ACENZ に関わった技術者との議論の中で、私は YP の活動を正式なものにすることに強い願望を抱いたが、そのいくつかについてはニュージーランドではまだ達成されていない。

私は今年、ACENZ のサポートを得ることと、この話題に強い関心がある人々の参画を狙っている。それには多くの課題があるが、最初の目標は YP 活動を継続させるためのフォーラムを形成することである。この記事内では、昨年の YP トレーニングプログラムで議論されたアイデアのすべてを紹介することはできないが、私はニュージーランドの若手技術者はとても活動的で、自分たちの業界に対して熱い意見を交わしていることをお約束する。

ジャン・クーベック（博士）

（地盤工学主任技術者、ニュージーランド、クライストチャーチ、オーレコン）



Ahmad Masyhur
Malaysia

マレーシアがグリーン・ビルディング・インデックスに着手

ACEM(マレーシア協会)は2008年8月、マレーシアのグリーン・ビルディング・インデックス(GBI)定式化に協力するようPAM(マレーシア建築家協会)に求められた。局地的なグリーン建築格付けツールによってかえって環境破壊に寄与する場合があります。グリーン格付け建築の必要性がもたらされており、そのため、ACEM(マレーシア協会)とPAM(マレーシア建築家協会)の関係もより緊密になっている。2協会の共同作業によって、持続性委員会(主としてマレーシアのグリーン・ビルディング・インデックスを開発しセットアップする仕事を任された委員会)と付随委員会(グリーン格付けされた建築を公認、認可するための委員会)が設立された。

2009年5月21日、マレーシアのグリーン・ビルディング・インデックスが着手されたことにより、マレーシア建築業界は、グリーン格付けに関する新しい評価基準が創設され、承認されるという新しいレベルに到達した。その歴史上のイベントはクアラルンプール展示会議場で開催され、1,000人以上の関係者とゲストが出席した。イベントは実行委員会委員長によるイントロダクションで始まり、その次にグリーン・ビルディング・インデックスのプレゼンテーションが続いた。

この GBI 格付けシステムはデベロッパーと建築物所有者に、エネルギーと水の節約、より健全な屋内環境、交通機関へのより良い接続性、そしてそれらプロジェクトのためのリサイクルと緑の採用を提供するグリーン建築を設計し建設する機会を与えるものである。完成セレモニー後のフォーラムで、GBI とアセスメントプロセスの詳細が説明された。そのプレゼンテーションは、グリーン・ビルディング・インデックス認定委員会メンバーの Ir. Chen Tiam Leong によって行われ、Q&A セッションが後に続いた。Q&A セッションでは、トピックを発表した認定委員会について多くの質問が出た。これに関する追加情報は、www.greenbuildingindex.org から入手可能である。



クアラルンプール展示会議場の GBI 完成セレモニー

もっと軽い話題では、マレーシアのヤング・コンサルタンツ・クラブ（YCC）が最近、2009 インター・コンサルタンツ・ボーリング選手権を組織し、多くのコンサルタントが参加した。ゲームの目的は、若いコンサルタント間の絆（きずな）をより密接にすること、そして、彼らの日ごろの競争から息抜きをすることである。この選手権は2009年9月14日に開催され、約68人が参加した。



マレーシアの公共事業大臣による GBI 格付けツール調印式



選手権トロフィーを勝利グループに与える ACEM 代表



Thomas Jensen
Denmark

COP15 は不十分な結果だったがコンサルタントは前進する必要がある

COP15 はコペンハーゲン合意という同意書により幕を閉じた。大きな疑問は、この結果がこの先のコンサルタントの活動にどう影響するかということだ。

十分な成果が得られなかったからといって、コンサルタント、ビジネス関係者もしくは地方政府は自身の行動を止めるわけにはいかない、というのが共通の認識であろう。

本文では、デンマーク人の視点から、コンサルタントがコペンハーゲン合意に対してどのように働きかけるべきかということ、企業および非政府組織の重要人物に問いかけている。

真実

コペンハーゲン合意は、全世界の気温上昇を摂氏 2 度以下に抑えるという指針と、12 の主要な声明文より成っている。この合意では、地球温暖化を科学的に捉えており、地球温暖化に関する新技術の開発に対して先進国が資金援助を行う必要性が認識されている。これに伴い、2010 年から 2012 年の間に 300 億 US ドルの必要資金の確保を目指している。2020 年からは、開発途上国における地球温暖化、および森林伐採や劣化による CO2 排出量増加に対応するため、毎年 1000 億 US ドルを追加資金として確保する必要がある。また、この資金の適切な運用のためコペンハーゲン・グリーン気候基金と呼ばれる基金が開設された。

CO2 排出量削減のための新技術

デンマーク水協会 (DANVA: The Danish Water and Waste Water Association) はここ数年 CO2 排出量削減のための活動をしている。DANVA の代表取締役である Carl-Emil Larsen は、現在この努力がいくつかのプラスの効果に結びついていると述べている。

DANVA は 2008 年に、水部門におけるエネルギー消費を 20%~25%節約可能であり、その結果 CO2 排出量削減に貢献できると予測した。2008 年からは、多くの自治体と民営の給水設備において、エネルギー消費抑制のための整備が進められている。その結果、対象設備の 25%以上において上記エネルギー消費の節約目標が達成された。

2009 年には、DANVA は国際水学会 (International Water Association) によるコペンハーゲン 水・エネルギー会議の主催を勤めた。本会議では、水およびエネルギー部門における CO2 排出量削減のための、関係者間における知識共有が主要な目的であった。

*「水とエネルギーを切り離して考えることはできない。ただ、エネルギーが重要なものである一方、水は生きていく上で必要不可欠なものである。これが現実だ」
Caro-Emil Larsen*

国際水学会の成果のひとつとして、COP15 の意思決定者に対する声明を発表した。この声明は、世界の気候変動に対する水とエネルギーの関連性に係る 8 つのメッセージから成る。Carl-Emil Larsen は、この声明が真剣に取り組みられることを望み、また期待している。

CO2 排出量削減が経済に与える影響も懸念されている。Carl-Emil Larsen は、将来に亘って持続的に運営が可能となるよう水分野に対して大規模な投資が必要であると考えている。長期的には投資は回収されることが予想されるため、積極的に投資を行っていくべきであろう。

デンマークは水分野でのエネルギー節約に大きく踏み出しており、Carl-Emil Larsen は、CO2 排出量削減においてデンマークのコンサルタントは革新的な考え方で世界をリードしていると確信している。次の挑戦として、国際的に協調を行うことが考えられるが、これによりさらに効果的な CO2 排出量の削減が可能となる。

DANVA は「水とエネルギーの関連 - 気候変動の枠組内とその向こう側」と題するパンフレットを出版している。

<http://www.iwwaterandenergy2009.org/>

望まれること：より積極的な合意

コペンハーゲン合意で得られた結果は、現在の国際政治状況を考慮すると最善の結果であったと思われるが、デンマークコンサルティング・エンジニア協会 (FRI) はいくらか懐疑的に見ている。Henrik Garver FRI 常務理事は、より積極的な合意をすべき箇所があるとし、以下 3 点を主要要素とする気候変動についての FRI のヴィジョンを説明している。

1. 2020 年までに、デンマークは環境保全の知識と技術、特に再生可能なエネルギー源、エネルギー効率改善、バイオテクノロジーと環境テクノロジーにおいて主要国となる。この立場はその後も維持しなければならない。
2. 更に、2050 年までにデンマークの温室効果ガス排出量を 1990 年と比較して 80% 削減する。これはつまり、デンマークは 2050 年に世界の温室効果ガス排出量を CO2 の 20 GT に相当する量まで削減することになる。
3. デンマークのインフラは将来の気候変動状況に対して着実に備えており、2011 年までに気候変動の主な状況を認識しそれに応じて将来のインフラを計画している。

Henrik Garver は、彼らが FRI でまとめた 3 つの要素を確実に実行するためには、コペンハーゲン合意の内容以上のことをする必要があると述べている。合意書は十分に野心的なものとは言えないが、摂氏 2 度という重点目標の科学的な重要性や、実行するために合意形成を行うという事実を共通認識できたという点などいくつか評価できる事項もあった。

また、COP-15 サミットでの首脳たちのプレゼンスは、最終的にそれ自体が将来の CO2 排出量削減に前向きな影響を及ぼすだろう。

しかし、Henrik Garver はコンサルタントにとって、COP の問題を単独で扱うのは難しいと述べている。ニューデリーで開催される FIDIC2010 での議題として気候変動やコペンハーゲン合意を取り上げるのも一つの選択肢である。

FRI は COP15 のサイドイベントとして「デンマーク ビルディング グリーン」を開催し、デンマークの自治体が CO2 排出量低下に貢献し、コンサルタントを使用することで CO2 循環型社会を作ることが出来るかという点を議論した。CO2 に係る新技術を活用した住居の建設を進めるといふ大きな目標のもと、消費者のエネルギー消費を低下させる試みに注目が集まった。Henrik は、イベントは成功し、デ

ンマークの努力とコンサルタントの強みを印象付けたと述べている。

FDIは、「デンマーク、環境国家のリーダー」を出版し、その中で自身の気候変動についてのヴィジョンを示している。

[http://www.frinet.dk/media\(2021,1030\)/Climate_vision_UK.pdf](http://www.frinet.dk/media(2021,1030)/Climate_vision_UK.pdf)

今から始めよう

デンマークのコンサルタント会社であるOrbicon | Leif Hansen のCEOを勤める Jesper Nybo Andersenは、優れた解決策を見つけ出すためには、すべての人が自身を見つめ直し、仲間や顧客と協力する姿勢が必要であり、世界中の人々により共有可能なコペンハーゲン合意はそのための大きな一歩であると述べている。

Orbicon | Leif Hansenでは、あらゆるプロジェクトにおいて「持続可能性」が重要な課題となる。Jesper Nybo Andersenは、世界中から集まった専門家集団と、彼らによる革新的アイデアと知的ソリューションこそがOrbicon | Leif Hansenの特徴であると説明している。彼はまた、多くの企業が国際協力に関心を寄せている中で、自身の企業の活動内容を見つめ直すことで今まで気付かなかった持続可能性を発見し、ゆくゆくはビジネスにまで発展させることができるであろうと指摘している。

「コペンハーゲン合意はただの文書であり、人間の活動が引き起こす地球温暖化を解決するための長い道のりの一歩に過ぎない。コンサルタント業界は、多くの人に受け入れられるような解決策を探っていく必要がある」 Thomas Jensen

連絡先:

Thomas Jensen

Orbicon | Leif Hansen A/S

Ringstedvej 20, 4000 Roskilde, Denmark

T + 45 46 30 03 37 M +45 21 28 67 07 E-mail



Takashi Nakajima
ASPAC YPF

ASPAC YPF (Asia Pacific Region Young Professionals Forum) の進捗報告

2009年9月14日にロンドンで開催されたFIDIC (国際コンサルティングエンジニア連盟) 大会のYPF OPEN Forumにおいて、ASPAC YPF設立の進捗報告が行われた。YPFアジア・パシフィックは、FIDICの下に初めて結成された若手専門職の地域グループである。Takashi NAKAJIMA (中島 隆志) (AJCE、YPEアジア・パシフィックのコーディネーター) は、Alex Eyquem (カナダ)、Andreis van Wageningen (南アフリカ)、Lucas-Jan Ebels (南アフリカ)、Santino Pirillo (カナダ)、Tian Feng (中国) といった他の若手エンジニアのプレゼンターたちとともに、主な進捗状況について報告した。

ASPAC FIDIC の加盟国はロンドン会議で2カ国増え、現在20カ国である。アジア・太平洋地域の国々は経済・文化・宗教面において、非常に多様性に富んでいる。この地域のエンジニアたちは、ともに働くことで多様性を理解しあう多くの機会に恵まれている。このような機会を利用して若手エンジニア同士が連携することは、プロジェクトの成功を導き、多くのスキルを磨くためだけでなく、コンサルタント産業を若手エンジニアにとって魅力的な場にするためにも、非常に重要である。

昨年は、アジア太平洋地域のFIDIC YPF 運営委員(Steering Committee SC)メンバーの協力のもと定期的に会合を開催した(Skype 会議、直接的な会合を含めて)、これは非常に画期的なことだった。この会合の結果、3つの目標が定められた。(1)FIDIC YPF による支援、(2)地域間の全体的な統合、(3)YP 間のより親密で有意義な相互関係の促進。ASPAC YPF SC は Takashi NAKAJIMA、Manoochehr AZIZ (Iran)、Prashant KAPILA (India)、Ahmad MASYHUR BIN JAHAYA (Malaysia)、Jan KUPEC (New Zealand) の5名によって発足した。FIDIC 大会における活動報告の準備は Nakajima が行った。



ASPAC YPF の活動報告をする中島隆志氏

ASPAC YPF 設立までの道のり

第一段階：運営準備委員会の開設		
2008年	11月	ASPACYPF ステアリングコミティ委員の招集 運営準備委員会の設立
	12月	活動内容の草案
第二段階：Skype ミーティング		
2008年	12月	第一回 Skype ミーティング
2009年	3月 カトマンズ	ASPAC-YPF ステアリングコミティ会議（イラン、中国、日本）
第三段階：運営委員会議		
2010	4月	運営委員（5カ国：インド、イラン、日本、マレーシア、ニュージーランド）
第四段階：ブレインストーミング		
2009年	5月～6月	第1回ブレインストーミングテーマ：ASPAC-YPF のミッション
	6月～7月	第2回ブレインストーミングテーマ（Skype）：活動計画
第5段階：報告		
2009年	9月	ロンドン会議で報告

ASPAC-YPF YP Activities for Asian-Pacific Region

(5) Mission of ASPAC YPF

(1) Support of FIDIC YPF
(2) Integration of the region
(3) Promote more meaningful and close interaction

1. Know YP activities in FIDIC
2. Issues News origin from ASPAC

■ Ahmad

1. Disseminate FIDIC
2. Promote young engineers

■ Jan

1. Support creation of YPF
2. Interaction to FIDIC YPF

■ Azizi, Prashant, Takashi

FIDIC 2009 Young Professionals Forum 15 - 16 September



Michele Kruger
South Africa

南アフリカ YPF ハウテン州 - サッカーの街 (ヨハネスブルグ) 現場見学

2008年11月に、Naidoo & Associates のPDである Hans Koon は、2010年6月～7月に開催されるサッカーワールドカップに向けて建設中のサッカーの街の建設現場周辺の現場見学に関心の高い YPF を引き受けた。Hans は、様々なデザイン要素の挑戦および解決策について YP に要約し、巨大なランドマークプロジェクトを含む仕事における、素晴らしい洞察を関係者に与えた。

2009年7月に、Hans は進捗を直接見せるために、追跡調査として YP を再度、スタジアムに連れて行った。少数の JRA と YP の Joburg Water もまた、我々と共にこのツアーに参加し、訪問した。

ハウテン州の YPF は、Stemele Bosch の Livengstone Mashele および現場見学の援助を行った YPF ハウテン州南委員会に感謝する。

下に示す写真は、現場訪問の概要である。

2008年11月



スタンドの最上段で YP に説明する Hans Koorn



スタンドからのピッチ風景



指定席の風景



Prashant Kapila
India

FIDIC若手エンジニアフォーラム運営委員会 (FIDIC YPF) 2010 Open Forum、発表者募る！

本年度の年次会議は2010年9月19～22日にインドのニューデリーで開催予定ですが、YPFステアリングコミティ (SC)は、年次会議期間中にThe YP Open Forum、The Future Leaders Workshop、business sessionの3セッションの実施及びFIDIC若手エンジニアフォーラム (YPF)の運営を担当します。

2010年9月20日に開催予定であるYP Open Forumでは、SCが議題選定、発表者の決定及び会場の管理等を担当します。2010年9月21日午後開催予定のThe Future Leaders Workshopでは、若手エンジニア経営トレーニング・プログラム (YPMTTP)参加者による8カ月のトレーニング成果の発表と修了書の授与式が行われる予定です。Business sessionは2日目と3日目に開催予定であり、若手SCメンバーが議長を務めます。

世界規模での協調によって様々な観点からコンサルティング業界全体へ影響を与えるという意味を込めて、「Succession Planning」が本年度のOpen Forumのテーマとして選ばれました。

先進国と途上国、もしくは経営者と小規模ビジネス従事者というように立場が異なれば本テーマに対する見解も異なります。2010年度のFIDIC会議には、途上国から先進国、または経営者から雇用者まで立場の異なる世界中のコンサルティングエンジニアが集結することになります。そのため、Open Forumでは、本会議のテーマである「Succession Planning」をどのように捉えているかといった若手エンジニアの意見のみならず、経営者が業界をどのように捉えているかを知る良い機会となります。

我々は業界にかかわるあらゆる若手エンジニアが、ニューデリーで開催される2010年度会議に参加して、他の参加者達から多くのことを学ぶ機会をつかんで欲しいと感じています。The YP Open Forumに参加を希望する方は、下記運営委員に連絡し、発表内容を記載したデータを送付してください。運営委員会が最終的にThe YP Open Forumの参加者の選定を行います。

Michele Kruger (michele@cswater.co.za)
Prashant Kapila (pkapila@ictonline.com)
Selena Wilson (swilson@mcelhanney.com)
Jean Phillippe Moreau (jean-philippe.moreau@bpr.ca)



Michele Kruger

FIDIC YPF を広げましょう！

皆さんもこの若いダイナミックなグループの一員になって、最新版のニュースレター、イベント（例えば FIDIC 会議とトレーニング機会）に関する情報を入手しませんか。

私達 FIDICYPF グループはあなたの国の YPs が何をしているか、そして、彼らとどのように関わっているかを調べています。下記のアドレスから YPF ホームページにアクセスして情報をお寄せください。

登録頂いた方には、ニュースレターやインフォメーションを送付いたします。あなたの情報の更新もお忘れなく。

私達と FIDIC に関する情報はこちらから。

<http://www1.fidic.org/resources/young/default.asp>

更に詳しい情報が必要な方や私と直接コンタクトを取りたい方は、下記のアドレスへ直接ご連絡ください。

fidicypforum@gmail.com

Michele Kruger
FIDIC YPF 運営委員会
コミュニケーション担当責任者

あなたの国でも YPF を作りましょう。

FIDIC YPF と各国の YPFs の活動が気に入ったら、今度はあなたの国の番です。あなたの国の FIDIC 会員協会(MA)を通して、YPF を組織するのが最もよい方法です。しかし、そのような協会が存在しない、あるいは、あなたの国の MA が YPF を持ちたくないならば、あなたはあなた自身で YPF を始める方法一緒に考えるために、我々に連絡を下さい。FIDIC を通して、我々はあなたの YPF 組織するために協力します。あなたに必要なのはエンジニアリングに対する熱意だけです！ その熱意からあなた自身であなたの YPF が何を代表するのかを決めてゆきます。何にフォーカスをおきましょう？それは若手エンジニアのトレーニングでしょうか？若い世代がエンジニアリングに興味を持つようにすることでしょうか？それとも仕事仲間を集めた社交界のようなもの？または、これら全てですか？

FIDIC YPF として、我々はあなたの新しい努力を支援するためにできるだけのことをします！

連絡は：fidicypforum@gmail.com



NEWSLETTER

YOUNG PROFESSIONALS FORUM
INTERNATIONAL FEDERATION OF CONSULTING ENGINEERS

FIDIC YPF News Letter 2010年2月号

下記の方々に翻訳を協力いただきました。
ご多忙の中大変ありがとうございました。

(敬称略)

原 崇	〇Ｙ〇インターナショナル(株)
宗広 裕司	(株)長大
香月 寛之	(株)建設技術研究所
矢神 卓也	(株)建設技術研究所
甲斐 慎一郎	(株)建設技術研究所
高樋 直人	(株)日水コン
加藤 佑希	(株)オリエンタルコンサルタンツ
長谷川 正	(株)長大 札幌技術部

取りまとめ
AJCE 技術研修委員会 YP 分科会
担当 中島 隆志
(株)建設技研インターナショナル